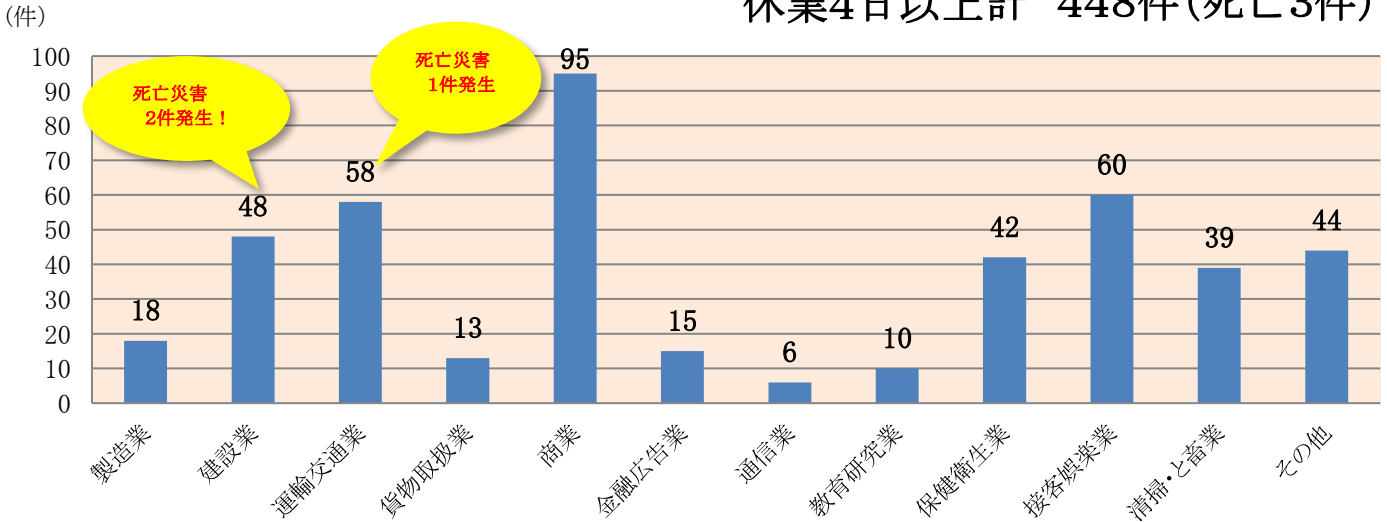


令和元年 労働災害発生状況

休業4日以上計 448件(死亡3件)



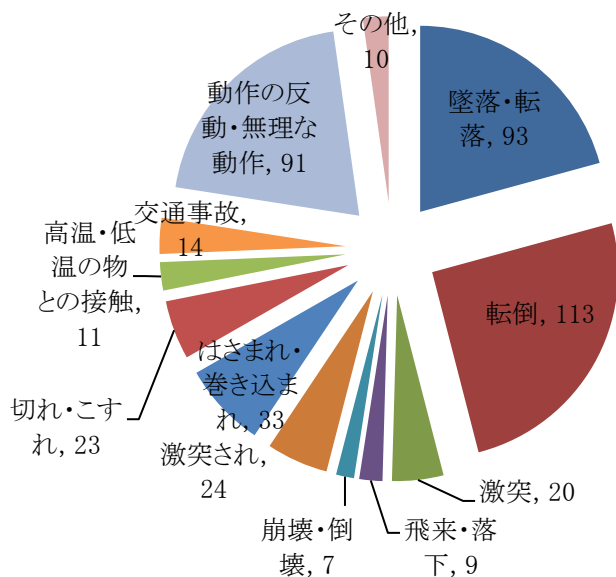
令和元年に発生した休業4日以上死傷災害は448件で、前年比で6.1%増加しました。業種別にみると、商業が95件(21.2%)と最も多く、次いで接客娯楽業が60件(13.4%)と続きます。また、死亡災害は、建設業において2件、運輸交通業において1件発生しています。

[死亡災害事例]

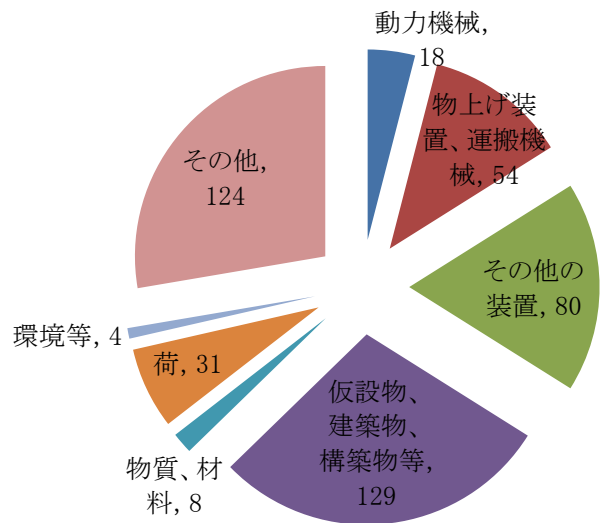
- 被災者は、木造家屋新築工事における既存建物解体作業中、コンクリート擁壁下部をピック(手持ち削岩機)により破砕していたところ、コンクリート擁壁が倒壊し、下敷きとなった。(建設業)
- 所属事業場へバイクで向かっていたところ、自損事故を起こしたものの。(運輸交通業)
- ビル外壁8階部分の亀裂調査のため、被災者は、ロープ及びハーネスを用いて屋上(10階)から外壁面に沿って下降しようとしたところ、1階まで墜落したものの。(建設業)

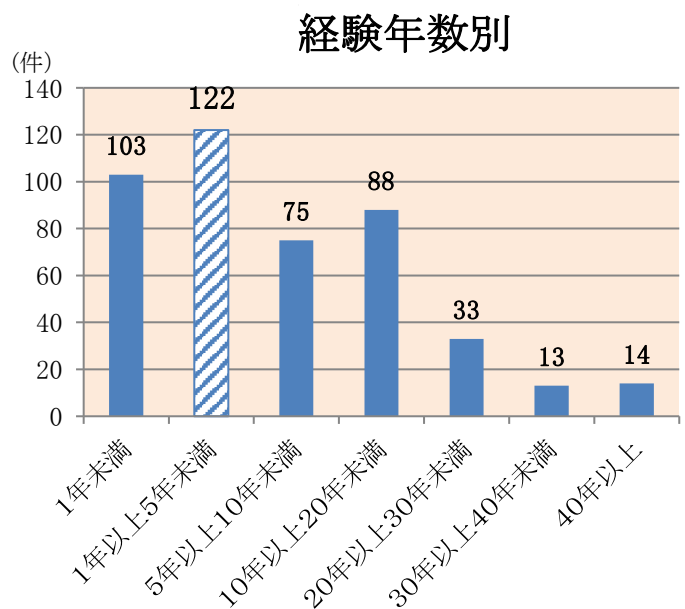
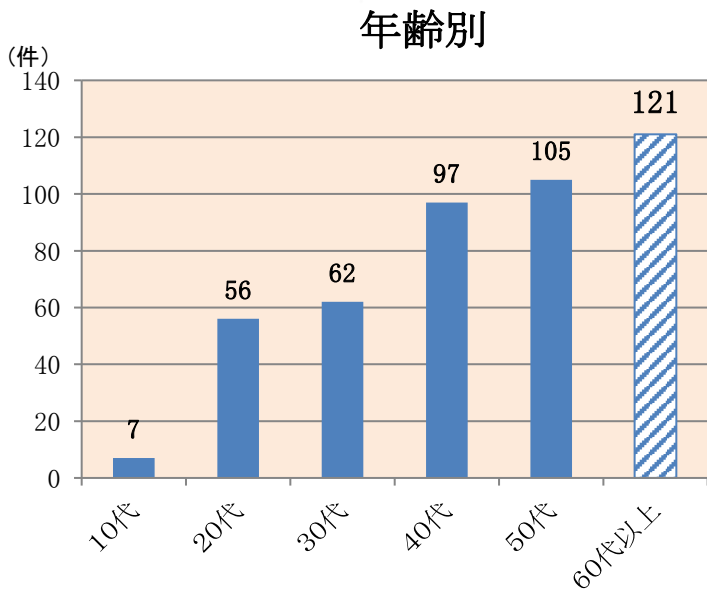
事故の型では、転倒、墜落・転落、動作の反動・無理な動作の順となっています。起因物では、仮設物・建築物・構築物等(足場・階段・建築物等)、その他、その他の装置(手工具、はしご、脚立等)の順となっています。

事故の型別



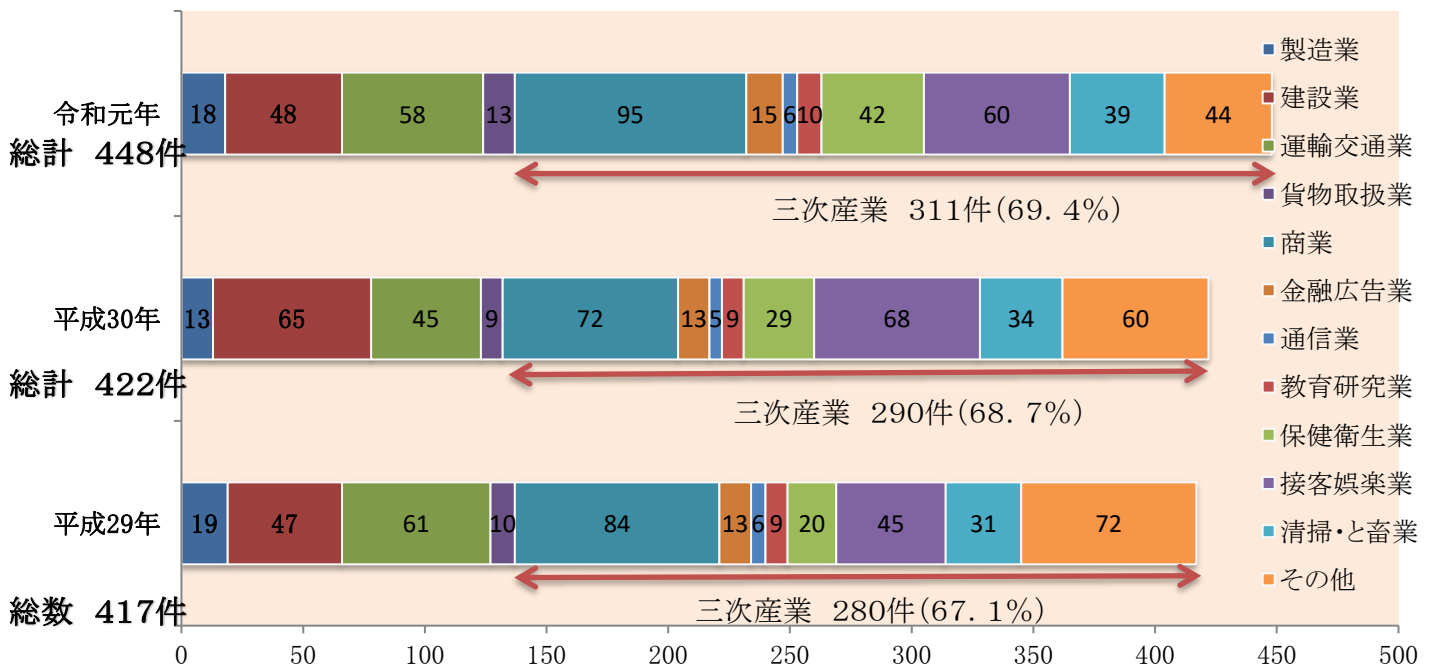
起因物別





年齢別では、40歳代以上の中高年労働者が323件で全体の72.1%を占めています。
 経験年数別では、5年未満の労働者が225件で全体の50.2%を占めています。

過去3年間の労働災害発生状況



平成30年は前年比5件増加(1.2%増)の422件でしたが、令和元年は前年比26件増加(6.2%増)の448件となりました。

業種別にみると、過去3年間とも商業が最も多く発生しており、商業を含む三次産業の全体に占める割合は過去3年間とも約70%と高水準で推移しています。